

## EUROGUSS 2026 の会場レポート



見本市 EUROGUSS	展示ホール	出展者数	来場者数
各種ダイカスト製品、ダイカストマシン/周辺機器、金型/付属品、ラピッドプロトタイピング/ラピッドツーリング、計測/制御技術、離型材、合金/金属、鋳造後処理/CNC 加工、廃棄物処理、安全対策	6 ホール： 4, 4A, 5, 6, 7, 7A  総面積 49,600 m <sup>2</sup> 展示面積 26,322 m <sup>2</sup>	2026 年 722 社 (ドイツ外 464 社)  2024 年 641 社 (ドイツ外 391 社)	2026 年 約 15,000 人  2024 年 14,341 人 (ドイツ外 6,853 人)

2026 年 1 月 13 日から 15 日まで、ダイカスト技術の国際見本市である EUROGUSS がドイツのニュルンベルクで開催されました。2 年に一度開催される同見本市はヨーロッパ最大のダイカスト見本市で、アルミ、マグネシウム、亜鉛ダイカスト加工の革新的なソリューションや材料、金型、製造技術が紹介されています。このため、会場には自動車分野に加え、航空宇宙、医療、エネルギー分野など多岐にわたる分野のビジターが訪れ、業界にとって欠くことのできない国際的なイベントとなっています。

出展者はドイツ、イタリア、スペイン、オーストリア、スイス、トルコなどのヨーロッパの国々が中心となっていますが、アジアからの出展者の割合も増加しています。開催 30 周年を迎える今回の見本市では 722 社が出展したこともあり、前回よりもホール数を 2 つ増やし、合計 6 つのホールを利用しての開催となりました。このため、連日多くのビジターが訪れ、活況を呈していました。今回の見本市の成功の背景には、自動車業界における EV 化・軽量化に伴う需要増と、IoT 家電、医療、航空宇宙分野での需要の拡大が関係しており、世界市場のポジティブな動向（ダイカスト業界の 2024～2033 年の年平均成長率は 6%）が見本市への関心を高める要因となったようです。

今回の見本市では、「ダイカスト業界の未来形作」といったスローガンの下、4つのテーマに焦点を当てた展示やイベントが行われました。

1. ダイカストにおける持続可能性と循環型経済：

持続可能な社会の実現に向け、製造プロセスの革新と、使用済み製品・スクラップの価値を最大化する循環型経済モデルへの転換を加速。

2. メガ／ギガキャスト：

一体成形技術により、部品点数と組立工程を削減。電気自動車の走行距離延長のために、車体の軽量化を可能とする技術を推進。

3. デジタル化と AI：

鋳造プロセスの自動化や品質管理の最適化、予知保全などに AI や IoT を活用し、生産効率と品質を向上。

4. イノベーションと熟練労働者の育成：

技術継承や職場環境の改善（DX の活用）により、熟練労働者不足を解消。



Bühler  
(ホール 4A-216)



Carl Zeiss  
(ホール 5-118)



Martinrea Honsel Germany  
(ホール 7-212)



STIHL  
(ホール 7A-460)

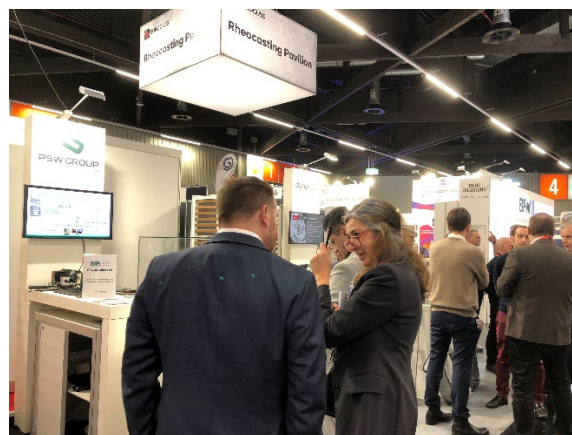
来場者は出展ブースを見るだけでなく、特別展示を通じて、最新技術や製品をより深く理解することができます。今回初めて「レオキャスティング・パビリオン（ホール 5-162）」が設営されましたが、ビジターから不純物の巻き込みによる鋳巣発生状況や金型の費用など、



次々と質問が寄せられました。また、特別展示「知識を生み出す研究」や大学・研究所の展示ではAI画像解析を用いた欠陥検出技術や半導体技術との融合など、様々な先端技術が紹介されていました。さらに、ヤング・イノベーターの共同ブースでは、スタートアップ企業が独自の斬新なアイデアや最先端技術を披露し、メディアや業界関係者に強くアピールしていました。お馴染みのイタリア、スペイン、チェコ共和国のカントリーパビリオンでは、省庁や業界団体の支援を受けた中小企業が販路開拓に積極的に取り組んでいました。



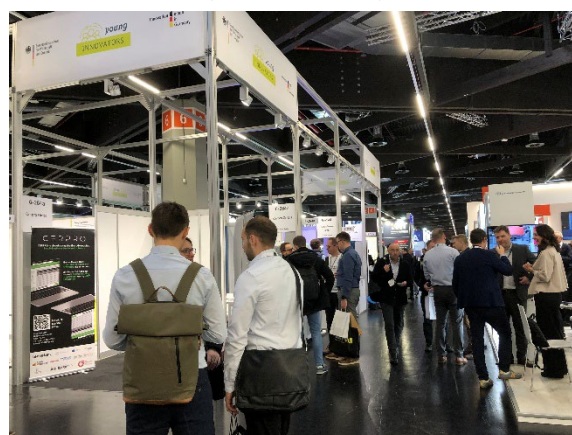
イタリア・パビリオン  
(ホール 4A)



レオキャスト・パビリオン  
(ホール 5-162)



フラウンホーファー研究所の共同ブース  
(ホール 4A-233)



ヤングイノベーターの共同ブース  
(ホール 6)

ホール4に設置されたスピーカーズコーナーでは、今回の4つのテーマやEUROGUSS Talent Awardの表彰式が行われました。また、NCC Ostのコンベンションセンターでは、見本市と並行して、ドイツダイカスト鑄造協会(VDD)とドイツ鑄造工業連盟(BDG)が主催するカンファレンス「ダイカスト・デー」が開催されました。今回の会議では、5G通信機器向けの高性能材料、スマート家電部品、デジタルシミュレーションの活用によるコスト削減に関する最新情報が共有されました。ヨーロッパダイカストコンペティションでは、毎回優れたアルミニウム、マグネシウム、亜鉛の鑄造部品が表彰されてきましたが、今回から、用途別(モビリティ、サニタリー、通信技術、電気工学、マテリアルイノベーション、ホーム&ガーデン、コミュニケーションテクノロジー他)に優れた部品が表彰されるようになりました。

今回の見本市では、高効率化、薄肉化、新素材対応といった技術革新を通じて、顧客ニーズに即した新たな価値創造を生み出そうとする業界の強い意志が感じられました。また、高精度な金型技術や異種材料の複合化、高強度アルミ・マグネシウム合金などの新材料、さらにはAIを活用したスマートファクトリー化など、製造プロセス全体の高度化も着実に進んでいます。ダイカスト業界は単なる部品製造から脱却し、設計段階からの技術支援や開発ライフサイクル全体でのソリューション提供、さらにサーキュラーエコノミー（循環経済）への対応を通じて付加価値を高めています。

新たに EUROGUSS のコンセプト・戦略開発の責任者に抜擢された **Phuong Anh Do** 女史は、「3 日間にわたるダイカストの展示は大成功でした。ダイカスト業界が一体となって未来を形作っていく様子を目の当たりにすることができ、大変嬉しく思います。EUROGUSS はイノベーションを促進する場であるだけでなく、金型製造を含め、バリューチェーンを俯瞰し、連携を強化するのに最高の場となっています」と総評を述べています。また、EUROGUSS の今後について、「ダイカスト業界は、自動車の電動化という大変革期に直面し、従来の部品供給から脱却し、高精度・高機能部品を効率的に生産し、グローバル競争力を高める変革が求められています。今後、ダイカスト業界がどのような方向に進むかは予測できませんが、EUROGUSS を製品発表の場としてだけでなく、技術的課題や環境変化に対応するための討論・課題解決の場へと進化させていきたいと思います」と抱負を語ってくれました。

次回の EUROGUSS は 2028 年 1 月 18 日～20 日に開催されます。海外進出の足掛かりとして、ぜひ EUROGUSS をご活用ください。



## 日本からの出展企業

株式会社ミヤキ（ホール 5-301）



株式会社日本製鋼所（ホール 5-126）



日軽エムシーアルミ株式会社（ホール 7 A-540）



株式会社ダイナモ（ホール 5-147）



株式会社キャストック（ホール 7-401）



リョービ株式会社（ホール 7 A-421）

